

文化

2025.4
第42号



大盛況だった芸術文化公演会（栃木県警察音楽隊コンサート）の様子

上三川町文化協会

令和六年度を経て令和七年度へ

文化協会長 尾高 康之

令和七年度を迎えるに際し、六年度に実施した文化協会の事業を振り返りたいと思います。

七月に二回目となる文化協会主催のコンサートを、オープン間もないORIGAMIプラザで開催致しました。新しい会場での栃木県警察音楽隊によるコンサートと言うこともあり、多くの来場者があり、会場も大いに盛り上がり、楽しい一時を過ごしました。一つ悔やまれたのは、予約申込の受付を開始して、一週間足らずで満席状態になり、止むを得ず、その後の予約申込をお断りしましたが、開催当日、欠席された方が意外に多く、結果として空席も生じ、お断りした方々には大変申し訳ない気持ちで居りました。次回は、空席を最小限に抑えるべく、知恵を絞って対策を講じて参りたいと思います。

十月の文化祭は、ORIGAMIプラザといきいきプラザを

会場として、初めての開催であります。又、文化祭がスタートして六十周年の節目の年でもありました。その記念式典と合わせ、記念イベントを開催した事と、会場が従来と変わり、近場に一か所に纏まった利便性等もあり、来場者も従来と比較すると、大幅に増え賑わいを見せました。

反省点も幾つかあります。照明設備の不備・不足の問題、ステージの階段の手すりの問題、展示作品のレイアウト上の課題、会場案内に関する課題、その他幾つかの課題が指摘されました。今後、これらの課題を次回の文化祭に向けて解決していく事が重要だと認識しています。

一方、文化祭を終えてのアンケート調査の結果によりますと、六割以上の方がほぼ満足以上の評価をされました。

総括すれば、反省点も有りましたものの、慣れない初めての会場での開催を考慮すれば、現

状で出来得る精一杯の成果をなし得たと評価しています。

十一月には、全体研修会を実施し、横浜市歴史博物館を見学しました。横浜市に於ける原始時代から明治時代に至る開港期までの歴史を学び、又、横浜中華街では、食を通して、横浜の文化を学びました。道路の交通渋滞もあり、バスでの長旅となり疲労は残りましたが、参加された会員の皆様方には満足頂けたらと思います。

年が変わり一月には、県主催の栃木県文化振興大会が、栃木市民文化会館で開催され、当文化協会から総勢四十名弱の会員が参加し大会に臨みました。会場に入ります前に、栃木市の蔵の街を散策し、山車会館を見学し、又、大会でのアトラクションも素晴らしく、有意義な一日を過ごしました。

以上が六年度実施した主な行事です。振り返りますと、コロナ禍の不安から解放された事も有り、それぞれの行事・催しに於いて、来場者も増え、活気・賑わいを見せた年でありました。

さて、令和七年度であります

が、一町二村の合併により現上三川町が誕生して節目の七十周年を迎えます。その記念行事に文化協会としてお手伝い出来る事が有れば、皆様方の協力を得て、お手伝いをしたいと考えて居ります。

事業計画に於いては、全体的に大きな事業の変化はありませんが、大洗町との文化交流事業については、双方の事情により、一部内容の変更を検討しています。

文化協会として、前年度に指摘された反省点を踏まえ、そして、会員の皆様方のご意見・要望に耳を傾け検討しながら、それぞれの事業の内容の充実を図り、進めて行きたいと考えております。

尚、役員改選の年でもあり、四月より一部の役員の交代があり、新しい体制になります。引き続き皆様方のご協力を宜しくお願い致します。

会員の皆様方には、今年度も上三川町の文化の振興発展に寄与すべき強い意識をお持ち頂き、文化活動に積極的なご参加をお願致します。

(記 令和七年三月一日)

文化協会

この一年

定期総会

◎四月十八日（木）

上三川町役場大会議室にて行いました。

◆文化功労者として石和芳子氏（短歌虹の会）、内田紀美子氏（上三川町茶華道協会）を表彰しました。



文化功労者の石和さん、内田さん

◆令和五年度事業報告および収
入支出決算、令和六年度事業計
画および収入支出予算について
承認しました。

◆会報『文化』第四十一号を発
行しました。

栃木県文化協会通常総会

◎五月二十二日（水）

とちぎボランティアNPOセ
ンターぽ・ぽ・らにて行われま
した。

第一回役員会

◎五月三十日（木）

◆大洗町芸術文化祭への参加・
芸術文化公演会について協議し
ました。

◆藤鶴会（民謡部）の退会を承
認しました。

芸術文化公演会

◎七月二十八日（日）

「栃木県警察音楽隊コンサート」
をORIGAMIプラザ上三川日
産ホールで開催し、二百三十二
名の来場がありました。（四頁参
照）

第二回役員会

◎九月四日（水）

◆全体研修会の開催・大洗町芸
術文化祭への団体派遣及び展示
出品について協議しました。

第六十回上三川町文化祭

◎十月十八日（金）～二十日（日）

文化協会からも多くの団体が
参加しました。大洗町との交流
ステージを開催しました。（五・
六頁参照）

第四十七回大洗町芸術文化祭

◎十月二十六日（土）

大洗町との交流ステージを開
催し、上三川少年少女合唱団、
日本民謡泉松会が出演しまし
た。展示交流では、絵画・写真・
ふくべ細工を展示しました。（九
頁参照）

全体研修会

◎十一月十二日（火）

会員三十七名が参加し、横浜
市歴史博物館を見学し、横浜中
華街を散策しました。（七頁参
照）

第三回役員会

◎十二月十八日（木）

◆文化功労者の推薦・会報『文
化』の原稿募集・出前授業講座
の募集・役員の改選について協
議しました。

第四十八回栃木県文化振興大会

◎一月三十一日（金）

とちぎ岩下の新生姜ホールに
て行われ、会員三十四名が参加
しました。とちぎ山車会館を見
学しました。

市町文化協会長会議

◎三月四日（火）

とちぎボランティアNPOセ
ンターぽ・ぽ・らにて行われま
した。

生沼家住宅「春の茶会」

◎三月二十日（木）

国登録有形文化財生沼家住宅
の庭園にある茶室にて、町から
の委託を受けて「春の茶会」を
開催しました。

呈茶は上三川町茶華道協会の戸倉哲仙先生が行いました。建物内では華道の展示も行いました。

第四回役員会

◎三月二十四日(月)

◆役員の改選・定期総会・文化功労者表彰・次年度事業について協議しました。



生沼家住宅「春の茶会」

児童・生徒文化体験子ども教室 文化協会出前授業講座

文化協会では、町内の小中学校の児童・生徒を対象に、文化・

芸術に親しむ機会を提供するために、会員が講師となって出前授業講座を開催しています。

平成二十八年度からは、町の委託を受けて児童・生徒文化体験子ども教室として実施し、より多くの子ども達に町内の伝統文化を体験してもらいました。
令和六年度は、十五教室を実施しました。

◎実施団体

◆上三川町茶華道協会

◆華道教室・茶道教室

◆絵手紙

◆絵手紙教室

◆邦楽伝統芸能継承団 翔
◆箏曲教室

令和六年

◆六月

茶道教室(坂上小)

絵手紙教室(明治中)

◆七月

華道教室(本郷小・本郷北小)

茶道教室(北小・本郷小)

◆九月

華道教室(上三川小)

茶道教室(明治南小)

絵手紙教室(本郷小)

◆十一月

絵手紙教室

(上三川小・坂上小)

◆十二月

箏曲教室(本郷中)

令和七年

◆一月

箏曲教室(明治中)

◆三月

箏曲教室(上三川中)



絵手紙教室(明治中学校)



華道教室(上三川小学校)

文化協会芸術文化公演会 「栃木県警察音楽隊コンサート」

文化協会副会長 稲見 敏夫

令和六年七月二十八日、土曜日、ORIGAMIプラザ上三川日産ホールにおいて栃木県警察音楽隊による吹奏楽のコンサートを開催しました。当日は、真夏の日差しの中にもかかわらず二百三十名以上の方がお越しになりました。

栃木県警察音楽隊は、昭和四十七年四月に発足し、「県民と警察を結ぶ音のかけ橋」として、演奏を通じて広報活動を行っています。演奏活動は、年間約五十回を数え、クラシックから最新ヒット曲まで幅広いレパートリーを演奏しています。

また、演奏の間には、犯罪被害・交通事故防止の講話や寸劇を行うなど、地域に親しまれる音楽隊として活動しています。

当日は、笑いあり涙(?)ありのステージで、誰もが知っている曲の演奏を始め、ソロパート

やMCなどであつという間に時間が過ぎていきました。最後にはしらすぎ吹奏楽団と共演し、会場を大いに盛り上げました。

演奏の腕はもとよりトークも非常に上手でお客さんひとりひとりが舞台に釘付けとなっていました。とても素晴らしいステージに訪れた方は大満足して帰られました。

音楽隊の方は、準備から撤収まですべてを自分たちで運転して、バスも自分たちで運転して帰っていききました。手際の良さとなんでもこなすその姿に、「さすがは警察官!」と感心してしまいました。

音楽隊は、今日もどこかで演奏していることでしょう。



栃木県警察音楽隊としらすぎ吹奏楽団の皆様



満員の観客



寄贈した作品「春雪」
(右：尾高会長 左：氷室教育長)

尾高会長が 絵画を寄贈

尾高会長は、町民が絵画へもっと親しんで欲しいとの思いからORIGAMIプラザへ絵画を寄贈しました。

この作品は、一般社団法人日本清興美術協会主催の第四十一回清興展において「文部科学大臣賞」を受賞した作品です。

ORIGAMIプラザ館内に飾っております。

第六十回 上三川町文化祭

第六十回を迎える町文化祭が開催され、文化協会からも多くの団体が参加しました。

今回からORIGAMIプラザといきいきプラザを会場とし、記念すべき六十回目の文化祭に華を添えました。

記念式典後の公演では、茨城県大洗町との交流ステージを行い、祭ばやしと和太鼓をご披露いただきました。

文化活動の発表の場として、町の文化の祭典に相応しい実りある文化祭となりました。

◎会場

ORIGAMIプラザ

いきいきプラザ

◎会期

十月十八日(金)～二十日(日)

※会員の展示・ステージを中心に掲載。



しらさぎ幼稚園の鼓笛隊



記念式典



囲碁大会



芸能舞踊祭



大洗町のステージ（和太鼓）



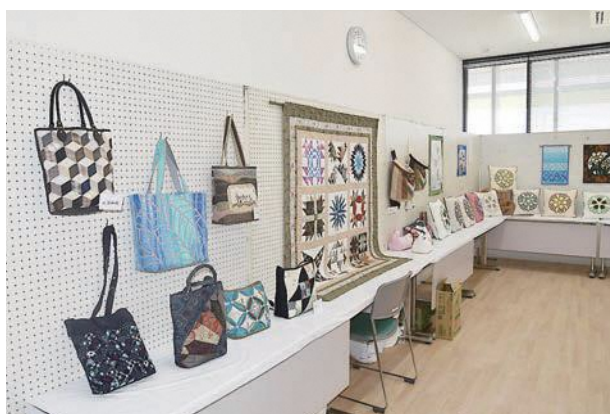
美術展



ハーモニカのステージ



少年少女合唱団のステージ



パッチワーク展



大洗町の皆様へのおもてなし



七宝焼き展



華道展



大洗町の展示（写真・篆刻ほか）



大洗町の展示（貝合わせ）

文化協会全体研修会に参加して ―横浜市歴史博物館と中華街へ―

文化協会副会長 戸倉 哲仙

令和六年十一月十二日、火曜日、上三川町文化協会全体研修会が開催されました。

今年は、歴史探訪ということで、総勢三十九名が神奈川県横浜市都筑区中川中央にある横浜市歴史博物館を訪れました。

東京都内を抜けなければならぬので渋滞をできるだけ避けるため、役場を七時（実際には六時四十五分）に出発し、宇都宮上三川インターチェンジから一路横浜を目指しました。

東京都内では渋滞に巻き込まれましたが、町バスの運転手の石濱さんの機転を利かした道路の選択のおかげで予定より五分早く、十時二十五分には博物館に到着することができました。

館内では、地元の博物館案内のボランティアの方々が待機されており班別に分かれて、それぞれ時代別に詳しく横浜の歴史

を説明していただきました。

特に、印象に残ったのは横浜の名前の由来で、もともとこの地域は、砂州（浜）が横に長く広がっていたので横浜と名付けられたとのことでした。

また、発掘された古代の土器や祭礼に使われたものなど興味深



博物館での見学の様子

いものが数多く展示されており、説明された方ももっと多く語りたい様子で、参加された皆さんももっと聞きたい様子でしたが残念ながら時間がとなりました。

予定より十分遅れの十一時四十分に博物館を出発し、次にお待ちかねの横浜中華街を目指しました。

中華街では、平日にも関わらず大変な賑わいで、どこからこんな人が集まってくるのだろうという感じで歩くのも大変なほど賑わっており、昼食の場所を見つけるのも一苦労でしたが、それもまた楽しい思い出となったと思います。そして皆さん思い思いの場所でお食事をとられ、中華まんなどお土産を手満足されたお顔をしてバスに戻られました。

帰路は、順調に都内も抜けることができ、それぞれの研修成果を胸に無事帰路につくことができました。



横浜中華街



博物館前で集合写真

文化協会加盟団体・役員紹介

令和七年四月一日時点

◆加盟団体紹介

- 文芸部
 - 短歌「虹の会」 九名
 - 俳句会 七名
 - 詩作の会 五名
- 美術部
 - 絵画教室 七名
 - 洋画部 八名
 - 日本画教室「華」 十六名
- 書道部
 - 上三川書道連盟 二十三名
 - 茶道部・華道部
 - 上三川町茶華道協会 六十三名
- 歌謡部
 - 上三川町カラオケ連合会 二十四名
- 民謡部
 - (公財)日本民謡泉松会 六名
- 舞踊部
 - 文化協会舞踊部 十五名
 - 郷土芸能部
 - 上郷神社太々神楽保存会 十名
- 手芸部
 - 上町自治会パッチワーク教室 十九名
- 陶芸部
 - 陶芸サロン 二十三名

邦楽部

- 邦楽伝統芸能継承団 翔 五名
- 文化財研究部
- 上三川町文化財研究会 二十六名

囲碁部

- 上三川囲碁クラブ 九名
- コーラス部
- 上三川少年少女合唱団 三十一名

ふくべ細工部

- 生きがいサロンふくべの会 七名
- 大正琴部
- 上三川町大正琴 琴音会 十名

吹奏楽部

- しらさぎ吹奏楽団 三十名
- 上三川ハーモニカサークル
- 〈さくら〉 十五名

工芸部

- 七宝焼彩の会 七名
- 写真部
- 上三川写真クラブ 九名

絵手紙部

- 絵手紙 二十名

全三十一専門部

二十五団体

四百四名

◆役員紹介

会長

尾高康之(美術部)

副会長

稲見敏夫(文化財研究部)

松本桃代(華道部)

戸倉文夫(茶道部)

事務局長

漆原幸子(手芸部)

事務局次長

奈良岡典子(吹奏楽部)

理事

羽生光隆(ふくべ細工部)

井口俊雄(歌謡部)

野沢充(文化財研究部)

大橋さゆり(書道部)

福田しずか(舞踊部)

猪瀬真喜子(美術部)

膝附和美(美術部)

高橋道子(舞踊部)

会計

石和芳子(文芸部)

大橋茂夫(美術部)

会計監査

上野キミエ(文芸部)

高山正(書道部)

顧問

関根豊

上野多栄子

文化協会会員募集

文化協会では、随時会員の募集をしております。会員の皆様方からも興味のある方へのお声がけください。

★入会資格

町内に活動の拠点のある方ならどなたでも入会できます。町内在住でなくても構いません。

★年会費

○正会員

個人 一,〇〇〇円

団体

二〜十人 二,〇〇〇円

十一〜二十人 三,〇〇〇円

二十一〜三十人 四,〇〇〇円

三十一〜四十人 五,〇〇〇円

五十一人以上 六,〇〇〇円

○賛助会員

五,〇〇〇円以上

★入会すると・・・

○文化協会の行う各種行事への参加や運営へご協力をいただくことができます。

○皆様の活動への補助制度がございます。

会員通信欄

◆上三川町茶華道協会

会長 松本 桃代

昨年六月、初夏の青葉の香りの中、茨城県の笠間市にある春風萬里荘そして茨城県陶芸美術館を訪れました。

上三川町茶華道協会として七年ぶりの研修旅行で、青天に恵まれ会員九名が参加しました。前回の研修で立ち寄る事が出来なかった常陸出雲大社に参拝し、拝殿の大しめ縄（長さ十六m、重さ六t）は、圧巻でした。春風萬里荘へ。北大路魯山人（二八八三年～一九五九年）のアトリエとして使用していた古民家で、手製の家具、愛用品等展示されています。また、茶室や石庭があり、一気に非日常の世界へ誘われ、庭園は、木々が萌黄色に色づいていました。

午後は、茨城県陶芸美術館。魯山人クロッシングの企画展で、美と食を追及した二十世紀を代表する芸術家の作品を堪能

し、赤呉須金襴手徳利は、深みのある赤が素敵でした。

今回の研修では、町文化協会様より交付金の助成を受け、魯山人の美の世界と現代の私たちが、クロッシングする一日を頂きましたこと心より御礼と感謝申し上げます。

これからも、国登録無形文化となった華道と茶道を出前授業等にて、伝統的様式、精神性の追求、美意識の継承を図ってまいります。



研修先で記念写真

第四十七回大洗町芸術文化祭

令和六年十月二十六日、土曜日、トヨペットスマイルホール大洗で開催された大洗町芸術文化祭において、十一回目となる上三川町と大洗町との文化交流を行いました。

到着早々、大洗町芸術文化協会の皆様から盛大な歓迎をいただき、一同大変嬉しい気持ちになりました。

交流ステージでは、上三川少



盛大なお出迎え

年少女合唱団の子ども達は素敵な歌声を披露し、日本民謡泉松会の皆様は素晴らしい演奏と民謡で会場を盛り上げました。

今回からは展示部門においても交流を行い、洋画部より絵画二点、上三川写真クラブより写真三点、生きがいサロンふくべの会よりふくべ細工五点を展示しました。

実りある文化交流となりました。



交流展示

文芸部 詩

アルバム

野水 忍

押し入れを整理しようとして
手を伸ばした書類と一緒に
すべり落ちた何冊かのアルバム
仕舞忘れていた沢山の思い出が
こぼれた写真の中から
次々と溢れ出て来る

お宮参り、七五三、入学式、成人式
時折々の娘達の成長の記録が
そこにはあった

祖母の米寿、白寿のお祝い
そして法事

我々夫婦にも敬老会の案内が
二人揃って届くようになり
終活の話も他人事ではない

シンフォニア

河野 真知子

万音の粒子が渦を巻き
軽やかな衝撃とともに
肚の一番奥へなだれこむ

音の波濤は身体の洞で反射して
私を髄から揺るがせる

居ても立つてもいられない
胸郭で弾けたリズムは
踊る靴から拍手にあふれ
唇を震わせる

満場から沸き立つ音で飽和したホールは
息もままならない

私の臓腑を舞わせて飛び立つ音符たちは
羽化を謳う蝶となり

透きとおって私へ融ける
いつまでも鳴りやまないシンフォニーは
感応をざわめかせる羽搏き

よりどころ

佐藤 かよ子

ガラス張りのカフェの前を
線を描くように走る車のライト

光の道を逆行していくと

過去の残骸がパラパラと降ってくる
もう光の先は何も見えずふりかえる

ぼうつとかすんでみえる景色をさがして
何十年もの間 ほったらかしにした

色あせた若い熱量

途中で手をはなしてしまった心のよりどころ

もう冷えきった頭と心と共に

今、そのよりどころをもとめて

かすんでいく景色を

はつきりとした色彩に

染めていけるだろうか

文芸部 短歌

五線紙の音符とならぶ黒い鳥

電線ふるう風笛の音は

訪れて歩む人なき野の径に

ほのか紅さす秋桜の花

消え残る昨夜の月は白々と

ピアノソナタの旋律に似て

木村 一男

グリムの森に光の花が広がりて

寒空の下嚙々としている

冬支度日差しあるうち障子張り

足腰なだめ枚数仕上げ

パラグライダー空と同化し風まかせ

下界のぞきて夢みる心地

高木 ヒロ子

猛暑日はエアコン涼し図書館に

ヒマワリ眺めうとうと気分

枝切りで見晴らしスッキリ男体山

近くに聴こゆグイスの声

年の瀬に振り返りみるカレンダー

十大ニュースは自己中心派

宇梶 弘幸

あの気迫力強さに見た者の

感動を呼ぶ田中一村

イロハ紅葉真赤に染まる逍遙園

月の明かりに照らしだされて

早咲きの水仙咲くやほつこりと

匂い香ぐわし春が楽しみ

高橋 路江

物価高おせち食材品定め

ため息ついてレジへと向かう

初詣君の合格祈願して

花満開の笑顔の春に

ろう梅のつぼみ膨らみ冬枯れの

庭に華やぎ鼻腔くすぐる

鈴木 初江

朝日さす新たな年の安寧を

崇めて合わす熱き手のひら

人の世の災いすべてなぎ払う

平和の剣に梅の芳香

味のある五〇〇グラムの手びねりの

素朴な無二の茶碗作らん

鈴木 喜三郎

冬休み入りし孫より誘いあり

共にお風呂に浸る幸せ

穏やかに年改まり道端に

咲くタンポポに春を待たれり

澄み渡る日光連山くつきりと

真白き姿輝きており

進藤 利子

恩師は天国親友はホームに入所とう

秋風切なく心揺さぶる

破れ障子に猫の絵をかき切り張りす

明日はひ孫が来るとうこの日

脚立に上がりしめ縄はりかえほつとする

今年もできたと自分をほめて

石和 芳子

初午や妻の実家のしもつかれ

郷土の味に未だなじめず

傍目には気ままに生きる寅さんの

苦勞を偲ぶ黄昏の駅

長かりし護岸工事の完成に

安らぎ戻る川のせせらぎ

小林 正昭

古い病みて中也の夢をたゆたはむ

見栄坊吞兵衛もつこすの父

蘇生せば助碎けむ喉破れむ

医師の声音の若さ悲しき

枕からくりくり眼見上げる

許したまへよ父のすべてを

河野 真知子

文芸部 俳句

松の内神社への道たづねらる

鉄鍋の七草粥や囲炉裏端

嬰兒のおむつもこもこ秋うらら

阿部 信子

息吸へば五臓すなはち緑さす

帰省子は風呂を掃除し戻りけり

耳聴し秒針刻む熱帯夜

上野 キミエ

紫陽花や七十路歩む未知の旅

縁側でお手玉づくり冬日向

ふつくと土盛り上ぐる福寿草

海老原 孝代

あちこちで打ち上げ花火犬ほえる

秋祭お囃子方のバチさばき

栗飯のその家々の自慢炊き

白寄 佳子

しなるほど八幡宮の実南天

萩の花揺るる風あり武家屋敷

百五十年経ちたる母校冬桜

谷田部 シツイ

空調の音のみ聞こゆ秋夜長

山茶花の花びら風と鬼ごっこ

天神の杜におごそか神楽舞

谷中 秀子

坂道の上に広がる初御空

穏やかに炬燵で巳年迎えけり

朝澄し調子そろわぬ初音かな

山本 裕子